

# 第4次産業革命期 情報リテラシー向上を

沢

## 日栄商事環境設備セミナー開く

金

日栄商事（本社・金沢市、中村哲郎取締役社長）は12日、第9回環境設備勉強会（共催・東芝キャリア、荏原製作所、パナソニック産機システムズ）を金沢市ものづくり会館で開き、参加者は人工知能（AI）やIoT（モノ

ノのインターネット）、ドローンなどがもたらす第4次産業革命期を企業や個人が生き残るための方策などについて理解を深めた。

セミナーには同社取引関係者ら約50名が参加。冒頭、中村社長が「弊社



が今年8月で70周年を迎えられたのは、皆様の日頃の支えのおかげだ。今日の勉強会が皆様にあって良かったと思えるようにしっかりととしたものにした」とあいさつした後、放送大学

大学院の吉川明彦氏が「第4次産業革命期を生きるための情報リテラシー向上方法」と題して講演。吉川氏は2011年にドイツ政府が「インダストリー4.0」と命名し世界に発信、それに倣い17年に経済産業省が「第4次産業革命」と翻訳し今後の方針として発表した経緯などを紹介。この流れが社会に劇的な変化をもたらすと指摘し、その対応策として既に身近となっているスマートホンやSNSプラットフォームを使いこなし、お互いに情報交換し知恵を出すことで情報リテラシー（知識・判断力）が向上すると強調した。続いて同社空調部から

設計積算課の林腰芳興課長が環境共創イニシアチブ（SII）が執行機関の17年度エネルギー使用合理化事業の補助金申請の概要や手順などについて詳しく報告。続いてメンテナンスクの多知孝宣氏が「パッケージエアコンのメンテナンスについて」と題してフロン排出抑制法に基づく簡易点検のポイントなどについて説明した。

この後、荏原製作所からはモデルチェンジした給水ポンプユニット、パナソニック産機システムズからはハイブリット空調スマートマルチの最新「GHP」、東芝キャリアからは、空冷ヒートポンプ式熱源機「ユニバー

サルスマートX」のEDGEシリーズなど各社新商品の特長などの説明が行われた。